

■財団法人福岡アジア都市研究所 平成 23 年第 6 回都市セミナー 講演録

- 日 時 平成 23 年 10 月 29 日（土）11:00～12:25
- 会 場 アイランドシティ中央公演ぐりんぐりん 北ブロック内特設会場
- 参加発表者（敬称略）
 - 藤 原 正 教（財団法人福岡アジア都市研究所 花のまちづくり研究会）
 - 立 花 澄 人（福岡市住宅都市局公園緑地部緑化推進課活動支援係長）
- コーディネーター（敬称略）
 - 岡 本 均（元西日本短期大学教授）
- パネリスト（敬省略）
 - 大 谷 雄一郎（福岡市住宅都市局公園緑地部緑化推進課長）
 - 木 村 三重子（NPO法人環境緑化を考える会代表）
 - 吉 原 春 造（日本ハンギングバスケット協会福岡県支部副支部長）
- テーマ 「花のまちづくりシンポジウム—花の美しい都市 福岡をめざして—」

●セミナー記録

1. 主催者挨拶（11:00）

財団法人福岡アジア都市研究所顧問 樽木 武より開会挨拶

花のまちづくりシンポジウム開催につきまして、一言ご挨拶申し上げます。花のまちづくりの目的には大きく分けまして、自分自身が楽しむということと、もう一つは訪れる人へのおもてなしということがございます。きょうのシンポジウムは、もてなしのための花のまちのありかた、これについて語るために開催させていただきました。国内外のどんなまちを訪れても花が飾られていないまちはないと思います。しかし、その中で我々が花に感動するまち、あるいはそうでないまちがありますが、果たして福岡の街はどちらでしょうか。どうお思いでしょうか。正直言って、花のまちとしては、私は十分でないと思っています。まちづくりの中で、どんな場所にどんな花を、いつどのように飾ることで、もてなしになるのか。その戦略を考え、実行するにはどうすればよいのか。本日は、花のまちづくりに造詣の深い方々に、それぞれの立場からご講演、ディスカッションをお願いしました。会場の皆さんにはそれを聞いていただいて、福岡ならではのまちづくりを考えて、実践していただければとお願いしながら、挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2. 基調報告（11:05）

- （財）福岡アジア都市研究所 花のまちづくり研究会 藤原正教氏による研究報告
テーマ「花のまちづくり“福岡”」

先ほどの授賞式を拝見して、私の知らないところで、ずいぶんいろんな花のまちづくりの活動がされているのだと思いました。早速、ご報告に入りたいと思います。まず、花のまちづくり福岡という研究は、財団法人アジア都市研究所の中に花のまちづくりの研究会が立ち上げられまして、約 1 年かけて研究したものです。本研究の内容はそこにありますように、5 つの章からなっ

ておりますが、本日は時間の関係で、最初の1章と最後のこれが全体のまとめになりますけれども、5章の要点を述べさせていただきます。この報告書は別途出ておまして、財団法人福岡アジア都市研究所のホームページでダウンロードできますので、詳しくはこれをご覧ください。

まず、研究の背景として、最近ますます厳しくなっていく国際的な都市間競争の中で、福岡市が真にアジアの交流拠点都市になっていくには、これからは都市そのものが美しいことが条件の一つになっていくと思われまます。そこで美しい都市を目指すには、広告規制や電線地中化など様々な要件がありますが、有効な手段の一つとして、花の活用も考えられると思います。花の美しい都市は都市としても美しいと言えるのではないかと考えています。そこで花の美しい都市を目指して、福岡市が花のまちづくりを推進していくことを期待しております。福岡市は全国的にみてもまだ花の先進都市とは言い難いと、そしてイベント「福博花しるべ」が一過性とならずに進んでいってほしいといったことが背景です。

視点は大きく3つありまして、一つは花をいかに美しく見せるか、いかに演出するか。これは海外、日本の約56都市と福岡市の花の演出の形態を約4千枚の写真の中から、約140枚ほど選びまして、いろいろ比較分析したものであります。

二つ目は花を福岡市のどの場所に効果的に導入するか。これは都市の玄関である空港や駅、都心部等、そういった都市戦略として効果的な場所を用意しております。

3つ目は一番問題なのですが、どうやって持続的な維持管理をしていくかということで、これは関係者のヒアリングを通じて、スキームを提案していきます。

その一つ目の視点ですが、いかに演出して行くかの提案ですが、一つは通りを基本的に考えていて、やはり建物が主で、それぞれが建物の用途・デザインに合わせて個性的に演出して行くことが望ましいということで、建物側の方でしっかりとそれぞれ花を演出できれば、通りをきれいにすると考えています。2番目は通りの花の景観ですが、道路側が従とし、デザインが統一感のある演出で美しくなる。歩道の幅員に合わせて演出の形態を変えることが重要だと考えます。

3つ目は、交差点等目立つところには力点を置いて、歩道全体でメリハリをつけると。特に交差点は4つのコーナーがあり、これをセットで演出するということが効果的だと考えています。

4つ目は都心の中に花時計等、核となるスポットである豪華な花壇を設置するというので、これは都心部の公園や、広場の中に一つぐらいは花を主役にした公園というのがあってほしいというようなことを考えています。

5つ目について、福岡市は、都心の中に3本の川が流れているという大変珍しい都市です。それでこの都心の河畔は福岡市の財産です。それで河畔沿いを活かした個性的な景観の演出に花を活用する。建物を水辺に接することが効果的ということで、このようなベルギーのブリュージュの写真のように建物と水がセットになると非常にいいということです。

それから6つ目、最後ですが、やはり、花だけでなく、花の演出は通り全体の中で発揮されるということで、建物のファサード、歩道の仕上げ、自転車、変圧器の色など全体的なデザインをするということで、倉敷など変圧器の色を工夫しています。福岡市は悪い例ですが、せっかくの花が自転車で台無しにされているということを示している写真です。全体的なデザインをするということが大事なことだと思います。

それから、どの場所に導入するかという提案ですが、一番目は、博多駅から天神まで2本の本格的なフラワーロードを作ったということです。一つは花しるべで、この間実施されました那珂川沿いを通っていくルートと、もう一つは博多川沿いの通りを、青のラインとの二つ常設のルートを作ったという事です。それから、2番目は天神の目立つ交差点の4つの角

にそれぞれセットで花を植えるということ。それから、陸の玄関は博多駅なんですけど、駅の正面の道路の交差点に花壇を設置し、筑紫通りも同じようにします。空港は正面玄関のところをきちんとするという。それから、もう一つ、博多川沿いをきれいにして、河畔をきれいにするために花を飾ったらどうかということです。これは一つの博多川沿いの写真ですが、次の写真が花をフェンスに飾ってみたところです。これは空港の写真ですが、空港の正面玄関の前に立体駐車場がありますが、そこに花を並べてみてはどうかということです。とにかく、人がたくさん来るところに、目立つように花を飾ったら効果的なんじゃないかということです。

それから、視点の3つ目のいかに持続的に花を育てるかに対する提案ですが、ここにあるのを読み上げますと、1番目は花苗を安定的に調達するために、地元の花苗生産農家の生産の安定化を図るとともに、花苗育成用地として学校の校庭や耕作放棄地を活用する。2番目に最も人的負担となっている水遣りの労力を軽減するため、再生水や雨水を活用して水源の活用を図る。3番目に花を育てるための技術的な指導者やボランティア等の人材育成を図るとともに、大学や若手デザイナー等の専門技術者に活動の場を与える。4番目に花に対する興味の醸成と啓発を促すため、花育の推進や多くの市民を対象とした花のイベントを推進する。5番目に安定的な活動資金を調達するため、既存制度の活用は基より、広く福岡都市圏市民、ここはあえて福岡都市圏市民としています。福岡都市圏市民からや、企業から活動資金を調達する仕組みを作る。6番目に最も費用のかかる花苗の育成配布を行う仕組みなど、コーディネートをNPOとした推進体制を作る。このNPO組織は行政とパートナーシップを図った民間主体の組織が適している。これが一つの目安にもなりますが、参考にさせていただきます。

今まではいろんな具体的提案だったのですが、やはり、人、金の多くの課題があります。実際にいろんなことを考えているわけですが、実現するにはどうしたらいいのだろうかということで、二つの提案をさせていただきます。道筋として提案します。一つは花のビジョンを策定することと、もう一つは（仮称）福博花のまちづくり推進協議会というものを設置することです。1番の花のビジョンを策定するというのは、現在、福岡市には「新・緑の基本計画」というものがあり、緑は花を包含した位置づけをしておりますが、しかしそれとは別に緑は緑、花は花としての、しっかりとした位置づけが必要ではないかということです。そこで福岡市の花の基本計画、これは花のビジョンと呼んでいますが、それが必要でないかということです。この二つの方向を連携をしながら進めて行くには、花のビジョンの考え方に大きく二つあって、一つは都市的戦略的に福岡市を美しいまちにして、観光を誘致するとか都市的にやるものとして、メインストリートや都心部や空港や駅や港など多くの人が訪れる場所を中心にやっていく考え方と、もう一つ地域的に住宅地とか学校とかでやっていくことと、両方必要でそれぞれが連携しながらやっていく方法があると思っています。

次に（仮称）福博花のまちづくり推進協議会の設置ですが、これは主には都心部を中心に考えたもので、そういった名前にしているものです。こういった場所は商業中心で定住の居住者が少ないのが特徴です。それで、一言で言うと、花のまちづくりを実現するためのエンジンの役割ということで、既存の市民団体の活動を支援し、実現が図れるように動く役目ということで、それぞれの活動団体がやりたいことがあり、それを後押しするような団体が必要じゃないだろうか。これが資金面、大きなフェスティバル、例えば商工会議所、九経連などとの協議機関ということで、こういった組織があったらいいんじゃないかとか、これは民間主体のNPOで行政とか市民団体とか、観光関係者も含めて全体で構成されています。行政と民間の共働が望ましく、三者の密接な連携ということで、福岡市と緑のまちづくり協会と福博花のまちづくり推進協議会とそれ

それぞれの役割が異なるわけで、それぞれが連携してやっていくことが必要だと思います。時間が限られていますので、非常にはしりましたけれども私の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

●福岡市住宅都市局 公園緑地部 緑化推進課活動支援係長 立花 澄人氏による活動報告 テーマ「福博花しるべ」

本日は、先ほどの研究報告の中でもご紹介されました、福博花しるべについてお話します。福博花しるべの概要は、今年の3月の九州新幹線全線開通の記念イベントといたしまして、博多駅から天神までの2.5キロの区間を、先ほどの写真のようにチューリップでつなぐことを実施した事業です。ルートはこちらです。黄色い丸がチューリップでつないだルートなのですが、博多駅前通りからキャナルシティ、清流公園、天神中央公園、そして市役所前の道路を通りまして、渡辺通りを通って、最後に警固公園までつなぎまして、植栽いたしましたチューリップの数は10万本になります。博多駅から天神までの2.5キロの区間、まさにチューリップの道を作り出しております。

こちらが博多駅前の福博花しるべ実施前の様子です。このような形で、花しるべの期間中はチューリップがかなり植えられている状態です。750メートルにわたって、1万4千本植えています。花しるべの終了後は、一部花壇を残して、後ほどご説明いたしますが、博多まちづくり推進協議会さんが管理を継続しておられます。こちらはキャナルシティですが、全面的に協力してもらって、キャナルシティさんが毎年実施しておられます花のイベントを、花しるべに合わせていただきまして、チューリップをテーマに行っていただいております。とてもきれいな様子です。清流公園ですが、これは実施前の状況です。これが実施中はこうなりました。那珂川を800メートルにわたって2万本のチューリップが植えられています。こちらは10品種、5色の花を使いまして、配色は少し分かれています。春吉橋からの眺望を意識した形での配色となっております。次は中央公園ですが、貴賓館の前の広場です。期間中はこのような形になっています。使ったチューリップは4万4千本です。次は天神2号線、市役所前の道路ですが、通常はこのような普通の道路ですが、期間中は元々花壇がありませんので、フラワーポットを48基設置して、幅員があまり広くありませんので、楕円の少し細長い形状にして、歩行者の邪魔にならないように配慮しながら設置しております。次は、天神2号線の市役所から渡辺通りに入るイムズ横の道路です。イムズさんの全面的協力をいただきまして、既存の花壇にチューリップを植えていただいております。最後が警固公園になります。実施前の通常の花壇の一部の様子ですが、こちらが期間中は2万本のチューリップが彩っています。警固公園は夜間に若者が大勢たむろして、落書きや器物破損が見られるということで、花を植えても踏み荒らされてしまうのではないかと、関係者の皆さんご心配いただいておりますけれども、結果的にそういうことは一切ありませんでした。このように空間を美しく保つことが、防犯にも寄与するのではないかとことを示しているんじゃないかと考えられます。博多駅前通りから天神の警固公園まで見ていただきましたが、いかがでしょうか。

次は背景について触れさせていただきたいと思います。平成23年度までの福岡市の目指すべき姿を示しました、福岡市のグランドデザインと風格ある美しい都市づくり、九州アジア新時代の交流拠点都市を目指すと言われております。この基本計画をもとに平成21年度に策定いたしました、福岡市新・緑の基本計画では、都心部での緑の川づくりを重点的施策として掲げています。また、

まちづくりに関して、天神博多ウォーターフロントの3つのエリアに連携を強化し、都心全体として回遊性や魅力の向上に取り組んでいます。このような背景のところに契機となりましたのが、九州新幹線の全線開通です。博多を訪れた方を花でおもてなし、博多駅の賑わいを天神まで呼び込むために、文字通り街の魅力をつなぐルートとして、花の道を作ることとしたのです。

花しるべの実施にあたりまして、各方面をお願いしたのが、市民の皆さんの協力です。例えば、花の植え付けを博多まちづくり推進協議会さんなどのエリアマネジメント団体や自治協議会、小学校、企業の皆さんにご協力をいただいております。市民の皆さんの参加を求め、これをきっかけとして、市民の手による花作りが継続的に行われるようになればと考えています。これが花しるべを実施いたしました趣旨です。こちらが、博多駅前通りから清流公園、天神中央公園、警固公園に至るまで、合計で13団体、366人の皆さんのご協力をいただきまして、10万本の半分、5万球の花を植え付けていただきました。博多駅前通り、警固公園では小学生にも参加してもらっています。そして、その成果ですが、市民主体の花のまちづくりが継続しています。博多駅前通りでは、博多まちづくり推進協議会さんが花しるべの実施後、街路花壇の管理を継続をされています。東住吉通りでは、地元の自治協議会さんがフラワーポットの管理を継続されています。

そしてもう一つは、子どもたちの体験ということで、自分たちの育てた花で街を彩ることで花への関心、まちづくりへの関心が高まったのではないかと思います。そして、それは子どもたち以外にも参加された皆さんにも言えることなんじゃないかと思います。

最後に花のまちづくりの今後の展開ですが、福岡市がアジアのリーダー都市として発展するために、手段の一つ目として、花と緑があふれ、観光客をおもてなしする魅力的な集客交流都市の形成を目指す必要があるのです。具体的には重点箇所での効果的な花の演出。例えば、神戸では駅と市役所を結ぶ道路を重点的に花で飾ることで、花の多い街として、広く認識されています。このような戦略的な花の集客を展開する必要があります。

そして、2番目ですが、イベントの継続的な実施による花のイメージの定着。福岡城さくらまつり、福博はなしるべなど象徴的なイベントを継続的に実施し、花があふれる美しい都市としての定着を図る必要があります。

そして、3番目、都心部における市民主体の花作りの推進。市民の皆さんが実施する花作りの活動を支援します。例えば、協定による街路花壇の管理制度など、活動場所の提供、緑のまちづくり協会、活動資金の提供、緑のコーディネーターによる活動の助言などにより、市民の皆さんの活動を支援します。このように都心部における花のまちづくりを展開する上で、この福博はなしるべは非常に有効な取り組みと考えています。

当初、この事業は九州新幹線全線開通の記念イベントとして、1年限りの予定でありました。しかしながら、花と緑があふれる魅力的な集客都市の形成を図るためには必要不可欠な事業ではないでしょうか。来年4月、福博はなしるべを再び実施いたしますので、皆さんお楽しみに。ご清聴どうもありがとうございました。

●パネルディスカッション(15:15)

テーマ「福岡市が「花のまちづくり」を進めていくためにはどうすればよいか」

岡本氏：シンポジウムはあまり面白くないかもしれませんが、花の絵がいっぱい出ますので、こちらの方もお楽しみいただければと思います。市民生活における、緑、花の大切さは、

今、基調講演をいただいた藤原さん、立花さんの報告でご承知の通りだと思います。また、会場には先ほどみどりへの貢献での表彰された方々がおられるようです。このイベントは市民、企業、行政が共働して緑に感謝しようという趣旨のもとで開催されています。特に今年は緑プラス花ということで、行政サイドもかなり力が入っているようです。福岡はいつ来ても勢いがあるという評価を得ていますが、その勢いを持続して行く一つの切り口として、花と緑の国際文化都市を目指そうということなんですね。そこで風景や景観との調和が取れている街、都市というのは、過去の経験上、そこに住んでいる人々の生活が落ち着いている、あるいは産業が正常に、健全に営まれているという事例を世界中見ることができます。たぶんそういうスライドが何枚か出てくると思います。

先ほどご挨拶いただきました、福岡アジア都市研究所顧問の樗木先生の元で、数年前、福岡市新基本計画がまとめられました。その中で安全で快適な市民生活。あるいは豊かな自然環境、歴史風土という方向が示されまして、美しい都市づくり、環境共生都市の実現。海と山がこれほど近くに存在している県庁所在地の都市というのは珍しいです。恵まれた都市だと思います。そういう中で、緑のもつ総合的な機能を活かして、優しい風景を持つ、花と緑の国際都市福岡を目指すということで、今日のシンポジウムを進めて行きたいと思っております。

先ほどの基調講演では、花の基本計画、花のビジョンを策定するということと、それを推進するための福博花のまちづくり推進協議会の設置に言及をされています。そして、福岡市をもう少し美しい街にしようでないかという研究、もちろん、樗木先生のお話の中にもありましたが、福岡は少し花が少ないのではないかとのご提言がなされています。福岡市民共有の風景、あるいは景観資源の一つとして、花を活用して行くというのは、今からの市民の一つの環境問題を解決していく。環境というのは、よくエコやリサイクルだと言われますが、フィジカルな問題だけでなく、美しい生活環境を作ろうということも環境改善の課題の一つだと思っております。美しい街こそ観光客が訪れます。シンガポール、クライストチャーチしかりです。観光客が訪れる街は緑がきれいです。ところが今、福岡においていただいている外国の観光客は、皆さん！電化製品を小脇に抱えて福岡タワーに上っておられます。あの上から、福岡の街はきれいだと思っていただければいいと思いますが。

きょうは、花のまちづくりを進めていくためには、どうすればいいかというタイトルが書いてあります。タイトルは平凡で優しいものですが、これは難しいテーマです。1時間で議論できるかどうか私にもわかりません。福岡市では、施策を進めるにあたって、共働という、協力して働きましょうというキーワードが掲げられています。市民、企業、行政の共働をやっていくためには、市民が主役になっていくのがキーになってまいります。そこできょうは園芸における市民活動の先頭に立って働いておられる木村さんの経験なり、フラワーアップについて、最初に口火を切っていただきたいと思っております。

木村氏：皆さま、こんにちは。藤原さん、立花係長、岡本先生のお話を伺って、とても頼もしく有難いなと思っております。私は市民の立場で花を学校や通りにいっぱいにする活動をしておりますので、それを紹介したいと思っております。フラワーアップスクール。主役は花と子どもたち。学校から地域へ。子どもから大人へ。町や通りに花を植え、みんなと共に支え合う。美しいまちづくりです。まちを育てたいんです。始まりは2000年。天神北の街路花壇 52 m²から。11年後、7校の外向花壇と街路花壇 124 m²に育ちました。子

どもたちのフラワーアップスクール活動は先生方、地域、PTAの方々が関わり、緑のコーディネーターさん、専門家にご指導いただき、企業や行政がサポートしております。今年の春、福博花しるべで子どもたちが学校で育てた5000球のチューリップを通りや公園に飾ることができました。とてもきれいでした。2000年の「通り」から始まり、2002年に大名小学校にステージを移し、2004年都市再生モデル福岡の事例として、名古屋での発表。2005年、第1回全国まちづくり会議で大名小学校の児童が新宿の工学院大学で発表し、日比谷公会堂でフラワーアップふくおか2004を受賞しております。2005年、アイランド花どんたくで、ここで私たちはグリッピーとの出会いがありました。大きな気づきと素晴らしい学びをいただきました。その時に汗をかけた仲間22名と翌年、環境緑化を考える会を発足いたしました。2008年、内閣府地方の元気再生事業、「元気アップふくおか、学校まるごと緑化大作戦」は2年間の受託を受けております。2009年、NPO法人環境緑化を考える会の認証をいただき、現在に至っております。私どもの願いはただ一つ。「みんなで花を育てて見守り支え合うことで、福岡の街と人が笑顔でつながり、美しく元気な日々の暮らしの日常づくり、風景づくり」です。フラワーアップの紹介ビデオを今回本当に素敵に作っていただきましたので、ご紹介します。私どもはコツコツと自分たちの活動をするしかないですけれども、これが一步一步広がって行けばと願っております。かけ足のご報告でしたが、皆様方のおかげで今日まで来れているんです。今後ともご指導、ご協力ご支援どうぞよろしくお願いいたします。本日はこのような場を与えてもらって感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

岡本氏：木村さんは今ご紹介されただけでなく、幅広い活動をなさっておられます。その中で特に子どもを中心になさっている活動についてご紹介されました。小学生が花や緑に親しんでいる姿がたくさん出てきましたが、将来への種や球根、苗が植え付けられたのではないかと思います。将来が楽しみだと思えます。先ほどから球根何万本という話がございました。そういう花は自然に生えるわけでないので、当然、種や苗の供給がなされなければなりません。福岡市でも供給をやっているケースが多いですが、少し表に出ていないくらいがあります。吉原さんに話を伺いたいと思えます。きょう、吉原さんの厚意で、たぶん市役所から予算は出ていないと思えますが、ベゴニアをベースとした花束を私どもの前にも飾ってもらいました。話が始まる前に吉原さんにちょっとだけ拍手をいただきたいと思えます。消費者の動向や今後の生産の課題やハンギングバスケット協会福岡県支部の副会長でありますので、街中にハンギングを導入していくにはどうしたらいいのかという話をお伺いしたいと思えます。

吉原氏：きょうは、生産と流通とハンギングバスケットの普及という立場でこちらに座らせていただいております。ハンギングバスケット協会福岡県支部からまいりました、吉原と申します。日頃は、ココスガーデンという園芸店を運営しています。

まず、写真を説明しながらお話したいと思えます。こちらの写真は久住の飯田高原の九重町のガーデンシクラメンの生産の映像です。なぜ、写しているかと申しますと、これは福岡と久住飯田高原のリレー栽培をされている生産者の方たちがいらっしやいまして、非常に熱心な研究会で、高原園芸研究会というものがあります。福岡は生産の面では、全国で2位や3位になるような非常に生産が盛んな地域で、皆さんのニーズがわかれば、即座に対応できる生産能力の高い県に、皆さんはお住まいになっているということをまずご紹介したいと思ひまして、選んだ写真です。こちらはハンギングバスケ

ットのラウンド型のもので作った写真です。東京の丸の内の写真で、ちょうど今頃の写真です。また、こちらは秋でベゴニアを使ったハンギングバスケットです。福岡は秋の花があまりきれいでないということをよく言われます。通常パンジー、ビオラやチューリップの球根を植えられますが、春までなかなかきれいにならないのですが、こういったベゴニアを使った花作りというのを提案したらと思ひまして、今回これを参考に入口付近に飾らせてもらっているベゴニアは、一つの提案としてさせていただきました。これは、夕暮れの写真ですが、こういう空間を飾ったところを、通勤とか観光でいらしてもらったら素晴らしいということで紹介させていただきました。こちらは、去年のグリッピーキャンペーンです。植物園でやりましたイベントの時のハンギングバスケットの壁掛けタイプの写真です。福岡でもこういう風にやったということをご紹介します。こちらは、グリッピーキャンペーンの一環で、ハウステンボスの国際ガーデニングショーの入り口を福岡市の案でやったプロジェクトです。次は、花のまちづくりということで、夏から秋にかけてのハンギングバスケットなのですが、カフェを飾っている写真です。この形で飾っているお店が増えたら、すごく明るいんじゃないかということで、撮らせていただきました。これは今年の春に国際ガーデニングショーがハウステンボスであったんですが、その時のコンテストで優勝された作品です。このように北部九州でもかなり盛んにハンギングバスケットがされています。これが3月の花しるべの時に、福岡市役所前の広場で花のデモンストレーションで、これは幅が90センチ以上あるんですけども、作らせていただいて、このような形でできるんですよということを皆さんの目の前で作ったハンギングバスケットです。これは市役所前の広場で花しるべのときにぶら下げたハンギングバスケットですけど、ロンドンみたいな形で天神の街で大きなバスケットがぶら下がったのは、これが初めてじゃないかと思っております。次に、花しるべのコンテストの時に、ハンギングバスケット協会が飾らせていただいたスペースで、立体的に飾っていただいたら、非常に街が明るくなるんじゃないかと思ひます。こちらはお花でこんな形で飾ったらという提案です。こちらは花しるべのイベントの中でコンテストをやっていただいて、突然、今年になって決まったんですが、準備が短かった割に、97点ほどの作品が集まりまして、3月にコンテストがありました。このときに大賞をとられた方の作品で、非常に色合いが素晴らしい作品です。これはその時に入賞された作品です。私たちもびっくりするぐらい、お好きな方で上手な方がたくさんいらっしゃるということを知りました。出された方はもっとこういうイベントがあったらと言われていました。次に、こちらは福岡市の花市場が主催している花の消費拡大のイベントの様子です。花市場でハンギングバスケットの講習を100人やったときの写真です。市政だよりで募集されたのですが、100人のところを270人以上の方が応募されたと聞いております。これは海の中道海浜公園で、ハンギングバスケット協会が展示しているスペースの中の花飾りです。こちらも3月から5月まで2カ月半飾りっぱなしで飾られている写真です。こちらもそうです。こちら先ほどデモンストレーションで使った90センチ以上のバスケットを2ヶ月半飾りっぱなしの時の、最後の方に撮った写真です。以上のように、ハンギングバスケットを使って天神や博多駅、キャナルシティなどいっぱい人が集まる場所に、写真を撮っただけで福岡だとわかるようなスペースを作っていただいたらと思ひまして、私の提案とさせていただきます。

岡本氏：一口にハンギングと言っても、壁掛け、ボール状、吊るすタイプとかいろんなタイプが

あるということがわかりました。会場にもいっぱいありますので、これが終わりましたら、見学されたらいかがでしょうか。先ほど吉原さんのお話の中で、福岡は秋の花が美しくないと言う話がありました。以前、ある県で秋口にこういう審査がありまして、秋に来て何を審査するのかと、審査対象の専門家から私どもが怒られた経験がありました。それから、よく食べ物に関して地産地消と言いますけども、昔の人の言うに、30里四方のものを食っておけという話もございます。ぜひ、福岡で生産してもらって、消費をするのが一番よろしいのではないかと思います。

さて、大谷さん。先ほどから、私は共働ということを言っておりますが、共働についての行政の考え方も結構ですし、どちらかという、私も大谷さんも今まであんまり花のことを一生懸命やってこなかった。花は緑にくっついているものだと、緑をちゃんとやっていたら、花はついてくるという考えできました。私も課長もそういう反省をしておりますので、福岡が花いっぱいの都市になるように、今後行政が少し前向きになれるんじゃないかと思いますが、その辺のところをお話いただけないでしょうか。

大谷氏：福岡市の住宅都市局の緑化推進課長をやっております大谷と申します。今、先生からご紹介がありましたように、福岡市の緑化を推進する立場から、花を決して忘れたわけじゃないんですけれども、このごろ花が少ないんじゃないかとか、福岡が一番じゃ決してないだろうといういろんな声を聞く中で、福岡の方の現状ですとか、これからどうしたいのかなというさわりの部分をご紹介させていただきたいと思います。

6年前に全国都市緑化福岡フェアをこの場所で開催しました。ご記憶のある方、足を運ばれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。115万人の方がここにお見えになって、いろんな市民、企業、自治体の方々が、庭や花壇を作ったりしました。大勢の方がお見えになりました。これは6年前の姿です。今は本当に緑がしっかりとしてきました。花いっぱい会場が飾られたところです。これは、その時の市民の出展花壇の制作をしておられます様子です。市民の方々が個人で出す、グループで出すなど、庭とか花壇がいっぱい出て来ました。過去にはこういう出すところがなくて、皆さん非常に苦勞をして作られましたが、いい経験をされているんだろうと思います。市民の出展の様子がたくさん出てまいります。フェアの会場がたくさんの花で埋まりましたが、その間花がら摘みがありました。9月から10月にかけて、まだ30度を超える日もある暑い中、たくさんのボランティアの方が毎日来て、花がらを摘んだり、会場を少しでも美しくしようとしてくれている様子です。こちら花がら摘みをして、少しでも花を美しく見せようとしている方です。それから、花緑ガイドツアーにボランティアで参加された方です。会場にお越しになった方々に少しでも花と緑に触れ合ってもらおうということで、ボランティアの方々にご参加いただきました。このほかに清掃活動、通訳、手話などいろんなボランティアの方々が会場で73日間ご活躍なさいました。この思いが後につながってきて、今の福岡の花作りに、市民、企業の方々の思いが繋がっているんじゃないかと、私は思っています。

実はここに福岡市が市民の花づくりをされる方への支援の内容があります。一つには、活動場所の提供ということで、道路、街路、植え込み、公園、学校の周辺などに花を植えまじょうと、場所を提供しよう、こちらはお約束事で一応紳士協定を結んで、お互いにきれいにし合いまじょうということとやっております。2番目は活動資金の助成ということで、やはり花をやられている方は、花は高い、お金がかかるなというのが実感

じゃないかと思いますが、その活動費の一部を公益財団であります福岡市緑のまちづくり協会から助成をさせていただいています。これは、道路、街路の植え込みの中に、福岡市と協定を結んでいるいろんな市民団体が、お花を植えていただいておりますけれども、その団体数が右肩上がりに上がってきているというグラフであります。緑化フェアが平成17年に行われましたけれども、今、平成23年で、確認ができるだけで81団体です。たぶん、隠れてやっておられる方はいっぱいいると思います。ぜひ、福岡市に教えていただきたいと思います。緑のまちづくり協会が活動資金の一部を助成している団体の数で、現在で82団体ということで、これも緑化フェアが開催されて以降、団体の数が増えてきているのがお分かりいただけると思います。

こういう風に右側の丸は先ほど言いました街路の空間、道路だけですけれども、それで花の活動をされている団体は81団体です。左側は公園や街路、団地などで協会から助成を受けている団体が82団体。一部だぶっておりますけれども、合わせて143団体の方々が福岡市の公共空間で花作りをされているというのが、やっと追っかけてここまでわかっていますが、これにプラスアルファがあると思います。これは緑化フェアのときは何分の1だったんでしょね。非常に6年前のフェアが大きかったなという印象です。ただ、これは円グラフを書いておりますが、道路と公園で花作りをされている方々が青。黄色は福岡市が税金で花を作って、植え替えをして管理をしています。真中を見ますと、市民の方々が福岡市内の公共の場、街路や公園などの公共の場で花壇を運営管理しているのが3分の1以上、37%となっております。左側を見ますと、当然ですけども、市民の方々がお住まいの住宅地、都心以外の所でご活躍なさっている。右側に行きますと、都心部にいきますと、86%は市のほうで花壇を作っているという現状です。そんな中で、福岡市では観光都市の戦略の一つとして、都市の緑の魅力アップということを目指しておりますけれども、おもてなしの花をそれに加えて都心部を魅力アップしていきたい。特に、おもてなしの場所であり、都市の顔となる場所、天神、博多駅とか、来街者の方の目のつくところに花を少しでも増やしていけたらなと思っております。そんな中で実は今、都市高速道路の天神北ランプ。ここは福岡空港などで降りられた方が、ずっと車を使って天神に降りてくる初めての都心部です。それから長距離バスで各地からお越しになった方が、初めて福岡の街に足を踏み入れる場所です。ここは実は何も緑が植わっていなかったんですけども、少しでもそういう方々に福岡の都市の魅力アップ、緑のイメージを定着させたいということもありまして、ここは競艇場の駐車場です。砂利敷きでした。何にも緑が植わっていませんでしたが、そこも含めて街路樹と合わせて緑を植えました。花も加えました。これもそうです。後ろが天神北ランプです。これは天神北ランプから天神に向かう中央分離帯です。それから、天神の真中の交差点の横断歩道がある中央分離帯です。横断歩道を渡っている方が少しでも癒されるように、中央分離帯の一部に花を植えている写真です。これは、後ろは福岡ビルです。中央分離帯の花壇を植えている様子です。今までの写真は、福岡市の方が行っております。中央分離帯ですから、車が危ないので車が停まって待っていて植えかえるわけにはいきませんので。これは天神のど真ん中で、福岡ビルの前の交差点で明治通りと渡辺通りが交差する場所です。向かいの福ビルさん、西日本鉄道さん、天神コアさん、これらのビルの方々に花の植え替えをしていただいております。4つ角があって、3つは花壇がないんですけども、年度末までにここを花壇にしたいと思っております。天神のど真ん中を花壇

にしようと思っています。これは、大丸前の花壇です。先ほど受賞され表彰がありました。これも西日本新聞会館さん、紙与不動産さん、博多大丸さん、西日本新聞社さんの企業の有志の方々がお植えになられています。これは博多駅の方で、奥の方が博多駅側です。博多口前の住吉通りの街路樹です。ここは博多駅が開業するまでは駐輪場でした。開業にあわせて駐輪場を撤去、集約して、ここにまた植樹帯を作って、花壇を復活したということです。これは来年の3月にやろうとしているんですが、まん前が博多駅、天神・チャンネルに向かう入り口の部分です。中央分離帯が5メートル幅の50メートルの長さのものができます。ここにも一部花壇を使って彩りを添えていきたいと思っています。またフラワーポットも設置します。3月までありますけれども、これも博多まちづくり推進協議会の皆さん、博多駅周辺の事業所の皆さんで、管理や水やりをしていただくような形となっています。

都心のおもてなしというのは、市役所だけではできません。市民と企業と市役所とが一体となって、特にエリアマネジメント団体の方々など、こういう方々にご活躍いただいて、共働で花のまちづくりを進めていきたいと思っています。

岡本氏：数年前にこの地で開催された都市緑化フェアを契機として、ボランティアが育成されていったんだというお話でした。私も関わっていたんですが、開催1週間目ぐらいから足の踏み場もないぐらいのトラックやダンプで、いっぱいの方でした。もちろん他県からお見えになった方も大勢おられると思いますが、福岡にはこれだけ緑で食っている人がいるのかとびっくりした経験があります。それだけ、緑が多様な証だろうと思います。大谷さんから行政の支援の話がありました。いろいろ相談されたらいいと思います。意外といろいろな支援体制が組まれています。それが行政の常として、皆さん方になかなか伝わらないんですね。聞くと、準備していますと言うのが行政の体制でした。たぶん、これからは変わるだろうと思います。いろいろな緑や花に関してご質問なり、提案なり、市に直接でもいいですし、まちづくり協議会などに遠慮なく聞かれたらいいと思います。また、協会の理事長のお話にもありましたが、緑のコーディネーターもおられます。そういうプロに近い方もおられていろいろな知恵を貸してくれると思いますので、ぜひ、「市役所はなんもしてくれん」ではなく、何かあったらいろいろな問題を持ちこまれたらいいかかと思っています。

さて、パネラー3人からお話をいただきました。市民の活動、まちを美しくしようよと、行政としての支援の在り方、事例もいただきました。そういうことをベースにして、大谷さんの話の中でおもてなしというキーワードが出てきました。市長は屋台を復活するんだと言って頑張っておられます。それは屋台という言葉を使っておられますが、福岡市に諸外国の観光客を導入したいという考えだということだと思いましたが、そのことに焦点を狭めて、吉原さん、こうやったら観光客が来られるんじゃないかとかないかということで、何かお話はありませんか。

吉原氏：屋台で皆さん楽しくしていただいているのであれば、屋台にひとつ花を飾っていただいで、女性もきれいで楽しみにしていただける屋台にさせていただいたらどうでしょうか。そこに配管があれば水があるので、花を一つ添えていただいたら、それぞれの場所がきれいになるんじゃないかなと思います。

木村氏：B級グルメ大好きなので、屋台は賛成です。私はお酒は飲みませんが、みんなが気さくに來れるまちになるというのが福岡の良さかなと思います。そこに花があれば文化度が

上がるんじゃないかと思います。屋台というものが庶民的なもの。そして、花は江戸時代、昔は私たちの文化だったんですよね。梅がなったり、桜が咲いたりして、それがみんなを結びつけて、俳句を作ったりとか、そういう暮らしの中にある文化というものと、屋台は通じているんじゃないかと思いますし、花のまちづくりと花の文化というか、暮らしの文化というのはつながっている。何も新しいものではなく、昔、私たちの先輩たちがおじいちゃんやおばあちゃんや、うちの母が、みんながやってきたことを私たちが忘れたんじゃないかと思うんです。だから、屋台というワードの中に私たちの日常生活の延長線があるんじゃないかと思うので、高級グルメもあるかもしれないけど、日常の楽しみ方の一つというもので、花と屋台は結びつくんじゃないかと、勝手に今の岡本先生のフりに結び付けました。

岡本氏：いろいろな知恵を出していく場面が展開すると思います。いかがでしょうか。屋台には必ず花を飾るのを花行燈と名付けて、屋台は必ず花行燈を飾るということも、ちょっと考えていただけたらいいと思います。

ちょっとまとめると、花のまちづくり、将来に向けての花のまちづくりの理念としては、今までのように建設を続けなければ成長しないという、常に建設なんだという従来型の社会建設という考え方から、ちょっと違う建設、いわゆるお金や富や財の蓄積で味わう幸せよりも、花や花に囲まれた幸福感を味わえる。そういう社会建設に向かおうという意志が大事なんだと思います。住んでいる人が幸せなら、その幸せを体感しにお隣さん、またそのお隣さん、いわゆる観光客が訪れるんじゃないかならうかと思えます。

4、5日前に他所でお話しをした時の資料をちょっとご紹介します。世界の57カ国を調べたんですね、所得と国民が自分たちが幸せなのか、幸せじゃないかという意識調査をやっておられるんですね。日本よりも所得が高くて幸せだと感じている国民が多い国は9カ国。日本より所得が少ないのに幸せだと思っている国民は、さて何カ国でしょう。12カ国です。いずれにしても、そういう国があるということです。電気をつけるよりも、昼間空を見たときに電線がないほうが、幸せなんだということをおっしゃる国民がいる国もあります。幸福感や、心や震災のキーワードである絆とか数値化できない項目も、市民を幸せにする重要な項目であることを認識することが大切です。常に言われてきたことですが、その認識というのは、共働。みんながそれに向かって働くことでしか実現できないんです。共働するからこそ、数値で示さなくても、みんな一緒にやっただと、いいものができたという満足感が得られています。それを傍観者的に市役所がやってくれる、どこかがやってくれる、政治家がやってくれるとなると、どれくらいの効率、どれくらいの経費がかかるということになりますので、ぜひ、共働で進めていくという体制にしてほしいと思います。そのツールとして緑とか花は大きい役割を示すと考えています。何度も共働という言葉を使っていますが、市民、企業、行政が共働するには、先ず行政の共働ですね。「行政が縦割りだ、横断でやらんといかん」と言われていますが、まさに行政の間の共働が大切だと思います。花の問題に関われば、環境の問題も関わってきます。花の生産の問題も関わってきます。その点で、行政の共働についてお話しをいただければと思います。

大谷氏：答えになっているかわかりませんが、共働について市役所内部のことで言うと、最近、局長からも部長からもよく言われます。横断的にプロジェクト、他局と連携して協調して、と言われます。役所は縦割りだとよく言われますけど、例えば今日、都市を美しく

していこうという話の中でも、花だけを植えればいいのかと言えば、決してそうではないことは、当然皆さんお分かりだと思います。私どもは花を植える緑化推進部ですが、放置自転車の問題も街の中をきれいにするには、解決しなければいけない問題です。屋外広告物の問題、ビラやポスターを貼っているそういう問題も同時に、サインの問題もそうだと思います。それぞれ役割分担が役所の中にはあるわけですが、一つの街を花で美しくしたいとこちらは思っていますから、結局、そういう部署が一丸となって、横断的に街を美しくしていくんだという形で持っていけないと、なかなか提言が達成されないということです。それといっしょで、共働ということ、昔のように緑を増やすんだと、木を増やさないといけないから、行政がしゃかりきになって木を植えて来たど、量は増えたけれども、果たして今振り返るとどうかなど、質や魅力の問題があると思います。まちで暮らす皆さんと働く皆さんと一緒に、同じ思いを共働して花づくりを進めていくというのが私の今の信条です。

岡本氏：非常に乱暴な話しの進め方でした。これはテーマが難しいからでして、花のまちづくりをどうしたら進めて行くことができるのかという、一見、優しいひとつ一つの単語ですが、中身は非常に難しく、私の能力ではこれを取りまとめることができないのです。いずれにしても、人間だけが集まっている都市、市街地というのは、生物の全体の仕組みから言いますと、非常にいびつな存在です。そこに花とか緑を持ちこむ水準の高い、簡単に言いますと、美しい、質の高い花や緑を持ってくる必要があります、そのためには共働という手法がどうしても必要だということはお納得いただいたんではないでしょうか。そして行政に共働でやろうよと、下駄を預けた形で終了したいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

5. 閉会挨拶 (12:20)